

福島県いわき沿岸でみられた寄生性巻貝 クリイロヤドリニナ (短報)

藤田恒雄

Parasitic Snail, *Pelseneeria castanea* Observed on the Coast of Iwaki,
Fukushima Prefecture (Short Paper)

Tsuneo FUJITA

寄生性巻貝の一種であるクリイロヤドリニナ *Pelseneeria castanea* は、九州から相模湾においてアカウニに寄生することが知られている¹⁾が、近年、分布の北限が拡大した記録^{2, 3, 4)}が相次いで報告されており、岩手県や北海道のキタムラサキウニからその寄生が報告されている。調査の結果、福島県沿岸にもクリイロヤドリニナが分布していることが明らかになった。福島県沿岸でのクリイロヤドリニナに関する記録例がないので報告する。また、寄生性巻貝キンイロセトノモガイ *Vitreolina auratasno* の寄生例についても報告する。

2002 年 8 月から 2003 年 11 月までの間、いわき市小浜地先にある地先型増殖場及びいわき市永崎地先、いわき市下神白地先の 3 カ所において、キタムラサキウニの潜水観察を行い、棘の一部が抜け落ちている個体や衰弱している個体を実験室に持ち帰り観察を行った。また、クリイロヤドリニナの寄生率を知るために、2003 年 11 月 4 日に永崎カジメダシ磯の 4 点から無作為に 141 個体のキタムラサキウニを採取し、クリイロヤドリニナの寄生状況を調査した。

この結果、永崎地先と下神白地先で採取したキタムラサキウニからクリイロヤドリニナの寄生が認められた。クリイロヤドリニナが寄生していたキタムラサキウニの殻径は 16 ~ 48mm で 50mm 以上の個体での寄生はみられなかった。これは、殻径 50mm 以下の小型個体での寄生率が高いとする岩手県、北海道での報告^{2, 4, 5)}と一致していた。無作為抽出したキタムラサキウニ 141 個体中、クリイロヤドリニナが寄生していた個体は 6 個体で、寄生率は 4.3 %であった。ウニの殻径が小さいものほど寄生率が高く、殻径 1 ~ 2 cm の個体では 14 個体中 4 個体 (寄生率 29 %) と高い寄生率を示した (図 1)。また、観察された全てのクリイロヤドリニナはウニの反口部に寄生していたが、これも他の報告^{4, 5)}と一致していた。1 個体のキタムラサキウニに寄生していたクリイロヤドリニナの数 は 2 ~ 22 個体で、いずれのキタムラサキウニにも棘間に産みつけられた卵嚢が多数見られた。寄生がみられたキタムラサキウニは、瀕死のもの、棘が短く衰弱しているもの、一見正常なものまでみられたが、潜水観察においては、棘間に産みつけられている白い卵嚢により、被寄生個体であることが一目で確認できた。

岩手県ではクリイロヤドリニナは夏から秋にかけてウニの体表面に卵嚢を産みつけることが分かっている⁶⁾が、本調査においては 1 月に採取したキタムラサキウニからもクリイロヤドリニナの卵嚢が見られたので、クリイロヤドリニナは長期間にわたって再生産しているものと考えられた。

クリイロヤドリニナが寄生しているキタムラサキウニの割合は、永崎地先で数%程度と推定されたが、下神白地先では、極まれにしか確認されなかった。しかし、寄生率の高い小型ウニの分

布密度自体が漁場により異なることもあり、寄生率は同じ地先でも漁場により異なっているものと推察された。漁業者の話によれば、磯焼け海域での寄生率が高いとのことであった。

本調査からは、クリイロヤドリニナがキタムラサキウニ資源にどの程度影響しているかは検討していないが、報告によるとクリイロヤドリニナの寄生したキタムラサキウニは高い死亡率を示すといわれている²⁾。今後も注意深く観察していくことが必要であろう。

一方、小浜地先で採集したキタムラサキウニではクリイロヤドリニナの寄生は確認されなかったが、小浜地先で採取したキタムラサキウニとバフンウニからはそれぞれキンイロセトノモガイの寄生が認められた。キンイロセトノモガイは、北海道南部から九州に分布し、宿主はアカウニ、ムラサキウニ、クロウニ、キタムラサキウニ、バフンウニとされている⁷⁾。キンイロセトノモガイの寄生がウニに与える影響については報告がない。

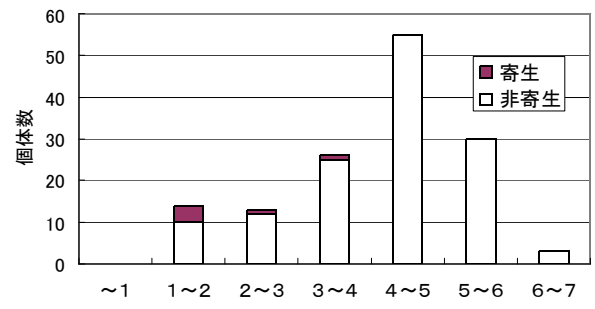


図1 永崎カジメダシで採取したキタムラサキウニ殻長組成とクリイロヤドリニナ寄生状況



写真1 反口部に寄生するクリイロヤドリニナ

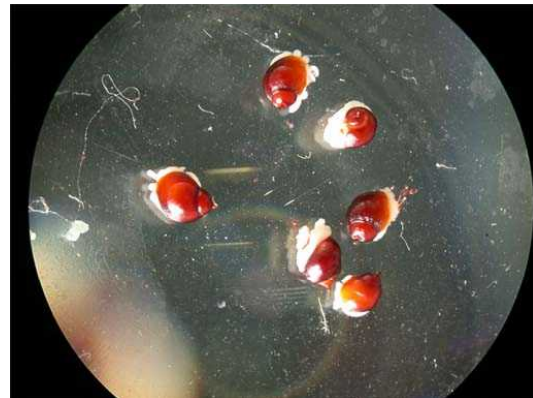


写真2 ウニから剥離したクリイロヤドリニナ

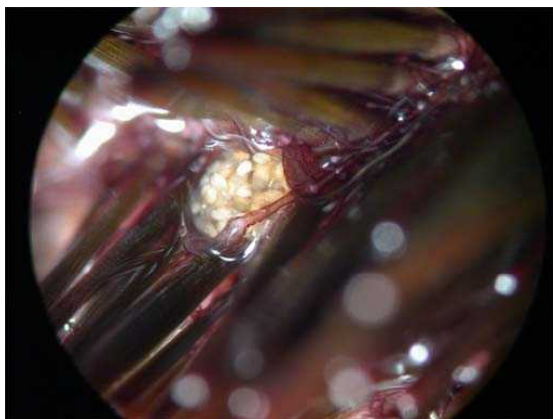


写真3 クリイロヤドリニナの卵囊



写真4 ウニから剥離したキンイロセトノモガイ

文 献

- 1) 奥谷喬司：生物大図鑑. 貝類. 世界文化社. 東京. p87. (1989).
- 2) 武蔵達也・内田 務・井ノ口伸幸・中井一広・坂下 薫：平成3年度東北ブロック増養殖研究連絡会議報告書. 135-146 (1992).
- 3) 武蔵達也・波部忠重：クリイロヤドリニナの新分布地と新宿主. ちりぼたん. 22 (3). 69-71 (1991).
- 4) 川井唯史・吾妻行雄：北海道後志沿岸における寄生貝クリイロヤドリニナの分布と出現状況栽培技研. 23 (1). 7-9 (1994).
- 5) 武蔵達也・西洞孝広・内田 務：岩手県沿岸における寄生貝クリイロヤドリニナがキタムラサキウニに与える影響. 岩手水技セ研報 1. 27-35 (1997).
- 6) 武蔵達也・伊藤正明・川井唯史：キタムラサキウニに寄生するヤドリニナの生態学的研究. 日本水産学会東北支部会報 39. 50-51 (1989).
- 7) 奥谷喬司：日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会. 東京. p 353. (2000).